

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 人間の尊厳と自立		授業の種類 (通信・授業・演習)	授業担当者 佐藤健志、先田尚記
授業の回数	時間数 5時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○尊厳の保持を理解する。</li> <li>○自立・自律の支援を理解する。</li> <li>○ノーマライゼーションを理解する。</li> <li>○利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</li> </ul> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt;</p> <p>実務者研修テキスト①『第1章 人間の尊厳と自立』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○尊厳の保持、<u>自立の支援</u>、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。</li> <li>○自己決定、自己選択、自己責任の関係性について、自立支援の視点から関連を考察できる。</li> <li>○ノーマライゼーションの理念について、具体例をあげて説明できる。</li> <li>○権利擁護の視点について自らの業務と関連付けながら説明ができるようになる。</li> </ul>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 社会の理解 I		授業の種類 (通信・授業・演習)	授業担当者 佐藤健志、先田尚記
授業の回数	時間数 5時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護保険制度の体系、目的を理解する。</li> <li>○介護保険制度のサービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担を理解する。</li> <li>○介護保険制度の専門職の役割等を理解する。</li> <li>○介護保険の実施状況と今後の課題を理解する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</li> </ul> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt;</p> <p>実務者研修テキスト①『第2章 介護保険制度の理解』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</li> <li>○介護保険法で使われる用語について学び、意味を理解できるようになる。</li> <li>○介護保険制度の枠組みとサービス体系を学び、利用までの流れをイメージできるようになる。</li> <li>○保険のシステムを理解して、自らの仕事の原資がどんな仕組みの上で運用されているかを知る。</li> <li>○要介護認定とケアマネジメントの基本的な運用を知る。</li> <li>○介護保険制度には、どのようなサービスがあるのかを知る。</li> <li>○介護保険の創設と、制度改正の背景にある、社会環境の変化について、理解を深める。</li> </ul>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 社会の理解Ⅱ		授業の種類 (通信・授業・演習)	授業担当者 佐藤健志、先田尚記
授業の回数	時間数 30時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活者、生活における適応技能について理解する。</li> <li>○家族、地域、社会との関連から生活や福祉をとらえる。</li> <li>○<u>地域共生社会の実現に向けた制度や施策について理解する。</u></li> <li>○社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得する。</li> <li>○<u>障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解する。</u></li> <li>○成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関する制度の概要を理解する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</li> </ul> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt; 実務者研修テキスト①『第3章 社会のしくみの理解』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家族、地域、社会との関連から生活や福祉をとらえ、適応技能を理解することができる。</li> <li>○<u>地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。</u></li> <li>○諸外国の福祉と我が国の現状について比較し、社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。</li> <li>○<u>障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</u></li> <li>○成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関する制度の概要を理解している。</li> <li>○医療制度、年金制度等、福祉に関連の深い社会保険制度について理解を深める。</li> <li>○各般の制度が、高齢者や障害者の介護と関連し合っている様子をイメージできるようになる。</li> </ul>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本 I		授業の種類 (通信・授業・演習)	授業担当者 廣田聖治、先田尚記
授業の回数	時間数 10時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○介護福祉士の役割と機能を理解する。</p> <p>○個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解する。</p> <p>○介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt;</p> <p>実務者研修テキスト②『第1章 介護福祉士と介護の考え方』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時における介護福祉士の役割を理解している。</p> <p>○個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。</p> <p>○介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、遵守している。</p> <p>○ICIDHと、ICFの違いについて理解を深め、事例を通して考える事が出来るようになる。</p> <p>○リハビリテーションの概念と発展を理解して、介護の展開に活かすことができるようになる。</p> <p>○急性期、回復期、維持期のリハビリテーションの目的と実際を理解し、チームアプローチができる。</p> <p>○廃用の悪循環を、良循環に転換できるイメージを持てるようになる。</p> <p>○できるADLとしているADLの違いを説明し、様々な評価指標があることを理解できる。</p> <p>○倫理の視点から、自らの業務を振り返り、現場にフィードバック出来るようになる。</p> <p>○身体拘束が、何故禁止されているかを理解して、自らの現場実践と照らし合わせて考える事が出来るようになる。</p> <p>○高齢者虐待の概念を理解し、虐待の発生時にどう対応すれば良いかを理解できる。</p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本Ⅱ		授業の種類 (通信・授業・演習)	授業担当者 佐藤健志、先田尚記
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握する。</p> <p>○チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得する。</p> <p>○リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得する。</p> <p>○介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt;</p> <p>実務者研修テキスト②『第2章 介護福祉士による介護実践』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。</p> <p>○チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。</p> <p>○リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。</p> <p>○介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。</p> <p>○地域生活支援の理念をノーマライゼーションの視点から捉え、分析する事ができる。</p> <p>○生活の構成要素を理解して、生活環境を改善して行く為の具体的方策を考える事ができる。</p> <p>○介護の実践課程にあつて、何故連携が問われるのかを、説明する事ができる。</p> <p>○KYTの実践方法を学び、それぞれの職場でも実践できるような、リスク管理能力を身につける。</p> <p>○介護職員の健康維持、労働衛生管理に関する基本を理解することができる。</p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) コミュニケーション技術		授業の種類 (通信)・授業・演習)	授業担当者 佐藤健志、先田尚記
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションについて理解する。</u></p> <p>○利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を理解する。</p> <p>○<u>介護におけるチームマネジメントに関する知識を理解する。</u></p> <p>○状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化(チームコミュニケーション)の技法を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt;</p> <p>実務者研修テキスト②『第3章 コミュニケーション技術』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○<u>チームマネジメント(組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォローシップ等)に関する知識を理解し、活用できる。</u></p> <p>○<u>本人・家族との支援関係を構築し、意思決定を支援することができる。</u></p> <p>○利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。</p> <p>○状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。</p> <p>○他者理解や、共感的理解の感受性を高めて、円滑な人間関係の構築の基礎を身につける。</p> <p>○言語と非言語のコミュニケーションを理解して、うまく活用する事が出来る。</p> <p>○円滑な人間関係から、円滑なチームアプローチの実践に繋がっていくイメージを持つことができる。</p> <p>○コミュニケーションに障害を持つクライアントの心情を理解し、共感的対応に必要な要素を理解することができるようになる。</p> <p>○障害を負うことについての本人や家族の心情を理解し、適切なコミュニケーションの態度がとれるようになる。</p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術 I		授業の種類 (通信)・授業・演習)	授業担当者 廣田聖治、先田尚記
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○生活支援おけるICFの意義と枠組みを理解する。 ○ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解する。 ○生活支援技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を理解する。 ○居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。 &lt;テキスト該当ページ&gt; 実務者研修テキスト②『第4章 自立に向けた生活支援技術の基本』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○生活支援おけるICFの意義と枠組みを理解している。 ○ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ○自立に向けた生活支援技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を習得している。 ○ADL動作のチェック項目を理解して、実践の過程を自己評価することができる。 ○居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解している。</p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 (通信・授業・演習)	授業担当者 研本彰子、先田尚記、 小田浩司
授業の回数	時間数 30時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] ○環境整備・移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・休息・睡眠・人生の最終段階における介護、福祉用具等の活用について、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行えるようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。 &lt;テキスト該当ページ&gt; 実務者研修テキスト⑤『第5章 利用者の心身の状態に応じた生活支援技術』</p> <p>[授業終了時の達成課題] ○環境整備、移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・休息・睡眠・人生の最終段階における介護、福祉用具等の活用について、利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術を理解し行うことができる。 ○どのような福祉用具があるのかを学び、貸与品目、購入品目を理解することができる。 ○住宅改修や福祉用具の利用方法と機能を理解することができる。 ○ターミナルケアの考え方と現状、展開を理解する。死生観を学び、介護の現場実践に活かす。</p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	



## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程 I		授業の種類 (通信)・授業・演習)	授業担当者 先田尚記、小田浩司
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護過程の基礎的知識(目的、意義、展開等)を理解する。</li> <li>○介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行えるようにする。</li> <li>○チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</li> </ul> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt; 実務者研修テキスト③『第1章 介護過程の基礎的理解』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護過程の目的、意義、展開等を理解している。</li> <li>○介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。</li> <li>○チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解している。</li> </ul>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅱ		授業の種類 (通信)・授業・演習)		授業担当者 先田尚記、小田浩司
授業の回数	時間数 25時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について事例を設定し、介護過程の展開方法を理解する。</p> <p>○観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt;</p> <p>実務者研修テキスト③『第2章 介護過程の展開の実際』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。</p> <p>○様々な事例から、どの様に介護を行えば良いかの実践的なイメージを掴む。</p> <p>○リスクマネジメントや、チームアプローチの視点からも、介護専門職としてどのように行動すべきかを理解する。</p> <p>○記録の取り方や、報連相のポイントなども併せて事例から学びとる。</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付			[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅲ		授業の種類 (通信・授業・ <u>演習</u> )		授業担当者 佐藤健志、研本彰子、 先田尚記
授業の回数 7回	時間数 45時間	配当学年・時期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得する。 ○介護過程の実際を実習を通して理解する。 ○介護技術の原理・原則の習得・実践。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○介護過程の基礎知識と応用 ○演習(事例を用いたグループワーク・ロールプレイ) ○テキスト・プリントの事例に基づいた介護技術の評価 ○試験実施、解説</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況に応じて介護過程を展開し、体系的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。 ○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。 ○介護実践の過程を、チェック表に基づいて自己評価することができる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針]</p> <p>【介護過程の展開】</p> <p>・1回目(7時間) 介護過程の基礎知識と応用(ケアプランとサービス計画に関する基礎的理解、居宅サービス計画・訪問介護計画・通所介護計画等とサービスの関係)</p> <p>・2～5回目(各7時間) 演習(事例を用いたグループワーク・ロールプレイ)</p> <p>【介護技術の評価】</p> <p>・6回目(7時間) テキストの事例に基づいた介護技術の評価</p> <p>【知識等の習得度の評価】</p> <p>・7回目(3時間) 試験実施、解説</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを配布		[評価の方法および基準] 実技試験 70点以上で合格 筆記試験 70点以上で合格 実技・筆記試験両方の合格により科目の修了を認定する。 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) こころとからだのしくみ I		授業の種類 (通信・授業・演習)	授業担当者 佐藤健志、先田尚記
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等)を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。        &lt;テキスト該当ページ&gt;        実務者研修テキスト④『第1章 介護に関連するからだのしくみ』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等)を習得している。</p> <p>○上記の知識を活かして、高齢者の状態変化や疾病の兆候をいち早く察知し、冷静かつ適切な対応を取れるようになる。</p> <p>○生活とからだの仕組みと関連性を理解して、より本人の能力に応じた支援を展開する事ができるようになる。</p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 (通信・授業・演習)	授業担当者 佐藤健志、先田尚記
授業の回数	時間数 60時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得する。</p> <p>○生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得する。</p> <p>○身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、連携等を理解する。(留意点:移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・休息・睡眠・人生の最終段階のケア)</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。 &lt;テキスト該当ページ&gt; 実務者研修テキスト④『第2章 心身の構造・機能と介護における観察のポイント』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。</p> <p>○生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。</p> <p>○身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、<u>関連する職種との連携</u>が行える。</p> <p>○疾患に対する理解を深め、それが身体状況や生活状況にどのような影響を与えるのかを学ぶ。</p> <p>○高齢者に多く見られる疾患の基礎と、介護保険の特定疾病の種類と概要を学ぶ。</p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解 I		授業の種類 (通信・授業・演習)	授業担当者 佐藤健志、先田尚記
授業の回数	時間数 10時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○老化に伴う心の変化と日常生活への影響を理解する。 ○老化に伴うからだ(身体機能)の変化と日常生活への影響を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。 &lt;テキスト該当ページ&gt; 実務者研修テキスト④『第3章 老化に伴うところとからだの変化』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○老化に伴う身体機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○老化について、主に心理的適応の点から考慮し、生きがいを見出す視点について学ぶ。 ○身体機能や役割の変化、喪失体験がもたらす心理的影響について理解できる。</p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 (通信・授業・演習)	授業担当者 佐藤健志、先田尚記
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○人間の発達の定義、発達段階、発達課題について理解する。</p> <p>○老年期の発達課題、心理的な課題(老年化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解する。</p> <p>○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt;</p> <p>実務者研修テキスト④『第4章 老年期の発達, 成熟と健康』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○<u>ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。</u></p> <p>○老年期の発達課題、心理的な課題(老年化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。</p> <p>○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。</p> <p>○高齢者の食事と栄養管理、疾病との関連について基本を学ぶ。</p> <p>○高齢者に多い症状と、バイタルサイン、観察のポイントについて学ぶ。</p> <p>○高齢者に多い感染症と、その対策を理解する。</p> <p>○高齢者の訴えや症状から、どのような疾病のリスクが考えられるか、気づきの視点と想像力を養う。</p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解 I		授業の種類 (通信)・授業・演習)	授業担当者 佐藤健志、先田尚記
授業の回数	時間数 10時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解する。</li> <li>○認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解する。</li> <li>○認知症の人や<u>家族</u>への関わり方・支援の基本を理解する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</li> </ul> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt; 実務者研修テキスト④『第5章 認知症の基礎的理解』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。</li> <li>○認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</li> <li>○認知症の人やその家族に対する関わり方・<u>支援</u>の基本を理解している。</li> <li>○<u>認知症の介護を行なう家族の実情と問題</u>について、理解を深める。</li> <li>○認知症の中核症状と周辺症状に対しての基本的な理解ができる。</li> <li>○老年期と適応障害、精神疾患の関連を学び、その違いを理解することができる。</li> </ul>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	



## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 (通信・授業・演習)	授業担当者 佐藤健志、先田尚記
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○認知症を医学的側面から見て理解する。</li> <li>○<u>認知症の人への支援</u>を理解する。</li> <li>○地域におけるサポート体制を理解する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</li> </ul> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt; 実務者研修テキスト④『第6章 認知症の医学的理解と支援の実際』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。</li> <li>○代表的な認知症と、老年期によく見られる精神疾患、せん妄等の違いについての理解を深める。</li> <li>○認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、<u>本人主体の理念に基づいた支援</u>ができる。</li> <li>○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</li> <li>○認知症の診断と、専門家の介入、受容過程への支援を学び、実践に活かす。</li> <li>○認知症の行動障害の対応について、事例を通して考察する。</li> </ul>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障害の理解 I		授業の種類 (通信)・授業・演習)	授業担当者 佐藤健志、先田尚記
授業の回数	時間数 10時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解する。 ○障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解する。 ○障害のある人やその家族に対する関わり・支援の基本を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。 &lt;テキスト該当ページ&gt; 実務者研修テキスト④『第7章 障害の基礎的理解』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 ○障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ○障害のある人やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。 ○障害者の生活実態を踏まえ、どのような不安を抱えているのかを理解する。 ○手帳制度の理解を深める。 ○障害を持つ人に対しての感度を高め、コミュニケーションの方法を吟味できるようになる。</p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障害の理解Ⅱ		授業の種類 (通信・授業・演習)	授業担当者 佐藤健志、先田尚記
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○障害を医学的側面からみて理解する。</li> <li>○障害の<u>特性</u>に応じた支援を理解する。</li> <li>○地域におけるサポート体制を理解する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</li> </ul> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt; 実務者研修テキスト④『第8章 障害の医学的理解と支援の実際』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。</li> <li>○障害の<u>特性</u>、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</li> <li>○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</li> <li>○障害の受容過程における心性の理解を深める。</li> <li>○様々な障害の種類を学ぶと同時に、受けとめかたや環境、その他さまざまな要因によって障害の困難性は影響を受ける事、ICFの視点に基づいて、それらを考える事が出来るようになる。</li> </ul>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 医療的ケア		授業の種類 (通信・授業・ <b>演習</b> )	授業担当者 横山登岐子、須浪紀久美、 永谷須美子、白髪優子
授業の回数 2回	時間数 通信:43時間・演習:15時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] ○医療的ケア(喀痰吸引、経管栄養等)を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 【通信】 ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。 &lt;テキスト該当ページ&gt; 実務者研修テキスト⑤『医療的ケア』</p> <p>【演習】 ○喀痰吸引の基礎的知識と実施手順の確認 ○シミュレーターによる喀痰吸引の実技演習(口腔、鼻腔、気管カニューレ内部を各5回以上) ○経管栄養の基礎的知識と実施手順の確認 ○シミュレーターによる経管栄養の実技演習(胃ろう又は腸ろう、経鼻経管栄養を各5回以上) ○救急蘇生法演習(1回以上)</p> <p>[授業終了時の達成課題] ○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針] ・1回目(7時間) 喀痰吸引の基礎的知識、経管栄養の基礎的知識 救急蘇生法演習 ・2回目(8時間) 喀痰吸引の実施手順の確認、シミュレーターによる実技演習 経管栄養の実施手順の確認、シミュレーターによる実技演習</p>			
<p>[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付・配布</p>		<p>[評価の方法および基準] 【通信】 演習問題による添削 70点以上で合格 【演習】 ・喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部それぞれのシミュレーター演習を5回以上、指導者評価によって平均70点以上で合格とする。 ・経管栄養 胃ろう又は腸ろう・経鼻、それぞれのシミュレーター演習を5回以上、指導者評価によって平均70点以上で合格とする。  ※通信・演習(喀痰吸引・経管栄養)、両方の合格により科目の修了を認定する。</p>	

介護過程Ⅲ

	時間割	内容	到達目標
①介護課程の展開 (35h)	1	9:00～9:50	<p>○実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。</p> <p>○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。</p>
	2	10:00～10:50	
	3	11:00～11:50	
	4	13:00～13:50	
	5	14:00～14:50	
	6	15:00～15:50	
	7	16:00～16:50	
	1	9:00～9:50	<p>○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援・多職種、他機関との連携を行うことができる。</p> <p>○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</p>
	2	10:00～10:50	
	3	11:00～11:50	
	4	13:00～13:50	
	5	14:00～14:50	
	6	15:00～15:50	
	7	16:00～16:50	
	1	9:00～9:50	<p>○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援・多職種、他機関との連携を行うことができる。</p> <p>○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</p>
	2	10:00～10:50	
	3	11:00～11:50	
	4	13:00～13:50	
	5	14:00～14:50	
	6	15:00～15:50	
	7	16:00～16:50	
1	9:00～9:50	<p>○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援・多職種、他機関との連携を行うことができる。</p> <p>○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</p>	
2	10:00～10:50		
3	11:00～11:50		
4	13:00～13:50		
5	14:00～14:50		
6	15:00～15:50		
7	16:00～16:50		
1	9:00～9:50	<p>○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援・多職種、他機関との連携を行うことができる。</p> <p>○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</p>	
2	10:00～10:50		
3	11:00～11:50		
4	13:00～13:50		
5	14:00～14:50		
6	15:00～15:50		
7	16:00～16:50		
②介護技術の評価 (7h)	1	9:00～9:50	<p>テキストの事例に基づいた介護技術の評価</p>
	2	10:00～10:50	
	3	11:00～11:50	
	4	13:00～13:50	
	5	14:00～14:50	
	6	15:00～15:50	
	7	16:00～16:50	
③知識等の習得度の評価(3h)	1	9:00～9:50	<p>試験実施、解説</p>
	2	10:00～10:50	
	3	11:00～11:50	

医療的ケア

	時間割	内容	到達目標
1回目	1	9:00~9:50	○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
	2	10:00~10:50	
	3	11:00~11:50	
	4	13:00~13:50	
	5	14:00~14:50	
	6	15:00~15:50	
	7	16:00~16:50	
		喀痰吸引の基礎的知識	
		経管栄養の基礎的知識	
		救急蘇生法演習	
2回目	1	9:00~9:50	○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
	2	10:00~10:50	
	3	11:00~11:50	
	4	13:00~13:50	
	5	14:00~14:50	
	6	15:00~15:50	
	7	16:00~16:50	
	8	17:00~17:50	
		シミュレーターによる喀痰吸引の実技演習 (口腔、鼻腔、気管カニューレ内部を各5回以上)	
		シミュレーターによる経管栄養の実技演習 (胃ろう又は腸ろう、経鼻経管栄養を各5回以上)	